

朝日 歌壇 俳壇



＜日曜日のブローチ 08＞ junaida

うたをよむ 小倉蒼蛙の俳句

俳壇で俳人の小倉蒼蛙さん(73)が第4句集「優しさの手紙」(書肆アルス)を出した。旧芸名は小倉一郎。多くの映画やテレビドラマに出演し、最近ではNHK朝ドラ「あなただけ」での演技が好評だ。俳人としては2023年に俳句結社「あおがえる」創刊主宰になっている。句集名になった句には「山田太一さんサヨウナラ」の前書きがある。山田さんが亡くなったのは23年11月。

蒼蛙さんが若き日に病で倒れたとき、山田さんからこんな手紙をもらっていた。「ぼくには絶対に必要な俳句さんです」「早くなくていいですから、本当に体力をつけて下さい」この句を含めて、句集には「追悼句」がいくつも収められている。丹波哲郎さんに「霊界に色無き風は吹きますか」。原田芳雄さんに「蛍死す電池交換出来るなら」。市原悦子さんに「よく通るまたねの声や冬の雲」。

役者としての信念がうかがえる句もある。「舞台より平素が大事立案」(初鏡 白髪も黴も役のうち)3年前に肺がんが見つかった。告げられた余命を過ぎた今、がんは消滅したが再発防止のための抗がん剤治療は続いているという。「杖をもて通院の手の悴みぬ」(遺言を咬んでいる秋の蟬)「冬萌や我にも希望らしきもの」(美しきこの世の眺め去年今年飾り気のないまますすむ句の数々は、じんわりと心にしみてくる。あおがえる。一步を何処に向けようか (俳壇担当 西秀治)

◆「永田和宏選」は選者が海外出張のため休みます。

第3回福畑汀子賞。日本伝統俳句協会の主催。高知市の橋田憲明さん(92)の「橋田憲明句集」(文学の森)と神戸市の三村純也さん(72)の「高天」(朔出版)に決まった。岸本尚毅著「露月百句」正岡子規が高く評価し、秋田県の近代俳句を先導した露月の句を読み解く。(秋田魁新報社・1540円)

☆は共選作。入選作はデジタル版などに掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300。短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿でき

◆大串 章選

白藤や卒寿の叔母が庭を掃く (東京都杉並区) 漆川 タ
衣替え高校生脱皮の日 (安曇野市) 太田 正子
夏の田の荒野のままに十四年 (いわき市) 佐藤 朱夏
☆百歳の幸福論や風薫る (岩国市) 富田 裕明
踊子草伊豆の山々見て育ち (長崎市) 下道 信雄
新緑にイーゼルならぶ湖畔かな (東京都練馬区) 吉竹 純
鱧釣や水平線へ竿を振る (津市) 富田 正宏
新緑の真っ只中に我ひとり (神戸市) 清田しおり
廃線の駅舎を囲む草若葉 (静岡市) 安藤 勝志
初夏の海へ降り立つ無人駅 (高松市) 桑内 蘭

【評】第1句。白藤の花びらを90歳の叔母が掃いておられる。健やか。第2句。「脱皮の日」が明るく力強い。いよいよ大人になってゆくのだ。第3句。あの東日本大震災から14年が経った。米が作られない田圃は、荒地のままだ。寂しい。

◆高山れおな選

蠅座の誘ふ灯台きらきらと (横浜市) 猪狩 鳳保
風光る風はいろんな花咲かす (高松市) 山内 聡
禁煙をはじめてやめて春惜しむ (川崎市) 折戸 洋
見知らぬ子混ざりて子らの野に遊ぶ (大崎市) 笠原 直子
父の日やしよんべんカープ決め球に (東京都府中市) 古川 泰
春水てふ柔らかなきもの光るもの (新潟市) 佐々木章子
緑の夜ひとりよりなほひとりなり (東京都世田谷区) 今井 ゆき
春愁がスタバの窓に並び居り (さいたま市) 久保田恵子
若葉風路地にキレキレダンスの子 (日光市) 土屋 恵子
蛇穴を出づればインドパビリオン (熊本市) 寺崎久美子

【評】猪狩さん。「誘ふ」も「きらきらと」もややゆるいが、蠅座と灯台の配合はとても魅力的。山内さん。風の重出や「いろんな」という指示のアバウトさ。こちらはゆるさ自体が味、かな。折戸さん。禁煙失敗がなぜか春惜しむにフィット。

◆小林 貴子選

遠足の列ぐだぐだの帰り道 (東海市) 斉藤 浩美
家事終えて新茶と「首相動静」を (川崎市) 横山由紀子
新人に周りが慣れて夏立ちぬ (横浜市) 高野 茂
ハンモック寝返り打ちてくくり風 (裾野市) 内木陽拓史
船頭のひよいとよけたる若楓 (高松市) 葛原 由起
うづまきて涅槃図にみる娘かな (奈良市) 藤岡 道子
青嵐ほとりと落ちて先制点 (東京都板橋区) 竹内宗一郎
独学の厳しさなるや青嵐 (吹田市) 佐藤 道子
新緑の真ん真ん中は落着けず (川崎市) 上山 暢子
春の夢そのうち意味がわかるかも (小平市) 倉持 聡美

【評】一句目、遠足の帰りはこうなりがちだが、それも楽しい。二句目、午前の家事が一段落し、「首相動静」を日々チェック。三句目、世代間ギャップを最も実感する四月、上五中七が面白い。四句目、くるり一回転して風に掛かった状態に。

◆長谷川 耀選

☆百歳の幸福論や風薫る (岩国市) 富田 裕明
白煙を今か今かと明易し (福島県伊達市) 佐藤 茂
或る朝の太陽夏を告げにけり (東京都板橋区) 竹内宗一郎
大屋根の昔ありけり桑畑 (越谷市) 新井高四郎
いきなりの夏日今年も始まりぬ (福岡市) 釋 鯛視
穀象に食はるる米もなかりけり (長崎市) 下道 信雄
噴水のしぶきを避ける日傘かな (大阪府島本町) 池田 壽夫
一湾の風に散らばるヨットかな (相模原市) 志村 宗明
立夏かなハックルベリー・フィンさかだちす (福岡市) 犬山 裕之
一生の大凡は難夏来たり (八王子市) 額田 浩文

【評】一席。百歳の人に、二十歳や六十歳の自分は見えるのか。そして未来は。二席。コンクラーベを、さてどう詠むか。出色の一句。三席。長く暑い夏の到来を告げる太陽。事もなげに。十句目。やすやすと運ぶのはほんの数日？ 実感。